

1. 会合概要

- ・開催日 : 2010年10月12日(火) 16:00~18:30
- ・開催場所 : BCAO本部(東海日本橋ビル)会議室
- ・進行役 : 川村丹美(CAC:座長)
- ・議事録作成: 川村丹美(CAC)
- ・出席者数 : 12名
- ・資料 : ITBO研究会 第5回アジェンダ
ITBO研究会会議資料_210101012(投影)

2. 議事内容

(1) 事務局報告

- ・ 研究会メンバー構成 (略・各自アジェンダにて確認のこと)
- ・ 前回(9/14)議事録の確認(略・各自アジェンダにて確認のこと)
- ・ 9月に開催されたイベント(略・各自アジェンダにて確認のこと)
- ・ 他部門との交流
 - 7/21 BCAO 関西支部訪問(鈴与株の物流事業 BCP 策定の取り組み)
 - 8/21 BCAO 関西支部訪問(津波・高潮センター見学)
 - 8/26 BCP 維持管理研究会訪問(LDPRS の紹介、訓練事例共有)
 - 9/30 BCP 維持管理研究会訪問(RADVISION の紹介、訓練事例共有)
 - 9/14 ITBO 定例会「特別勉強会」への各研究会座長等のご参加(8名)

(2) Happy Hour: 野口様(わかば国際特許事務所)

以下のような内容について討議を行なった

- ・ バックアップオフィスの検討
- ・ データのバックアップ要件に関する検討
- ・ 関連省庁(特許庁)のBCPに関する確認事項
- ・ 自社のBIA実施の必要性
 - 止めてはいけない業務とは何か
 - 「止まる」以外のリスクは何か
 - 対応にかかる費用と対応すべきこととのトレードオフ
 - 意志決定者は誰になるのか
- ・ 顧客との契約はどうあるべきか

(3) プレゼンテーション

テーマ：『【i2i Rescue】BCP 見える、つながる、いつもケータイ』

プレゼンター：市川 啓一様（株式会社レスキューナウ 取締役会長）

近棟 あづさ様（株式会社エム・ビー・アイ 事業推進部 課長）

渡邊 琢巳様（株式会社エム・ビー・アイ 事業開発部 部長）

プレゼンテーション概要：

<Part 1> (株)レスキューナウ 市川様

- ・ レスキューナウのサービスについて
 - ◇ 3時間×3つの対応×3つの情報が切り口
 - 3つの対応：状況把握、意志決定、コミュニケーション
 - 3つの情報：発生事象、自社の被害状況、取引先の被害状況
 - ◇ 60分で現状をまとめ第一報、120分後に詳細を追加発信、3～6時間で会議での検討用資料として使えるようなレポート発行
 - ◇ 海外向けサービスとして英語のサマリー版を、事象発生後45分～75分の間に1回発行
- ・ 【i2i Rescue】との関連
 - ◇ 災害時のコミュニケーションの重要性に着目し、対応可能なツールとして企画した

<Part 2> (株)エム・ビー・アイ 近棟様

- ・ 製品の特徴
 - ◇ 3G対応の携帯電話を使ってWeb会議の開催が可能
 - ◇ 言葉では伝えきれない部分を直接画像で伝えられるメリットがある
 - ◇ 受信側の要請に応じて画像の角度や距離などインタラクティブな対応ができる
 - ◇ 操作が簡単でありユーザー教育が不要である
 - ◇

<質疑応答/討議>

- ・ 輻輳（ふくそう）状態になった場合にその上を流れる情報が大きければ多きいほど（動画など）帯域に対する負荷がかかるという課題があるのではないかと帯域の問題については圧縮されたデータとなるため十分対応できると考える
- ・ 停電、インターネット回線の断絶など、インフラの可用性に影響を受ける部分があるのではないかとつながらなかったときにどうするかが課題となるのではないかと災害の種類、程度など現状では想定をつかいないことも多いため、対応シナリオや手段を複数準備しておき、そのとき使える手段を使って柔軟に対応するという発想が必要
 - 使用例：画像だけ録画しておき、電波がつながる場所に移動した後に発信することも可能

- ・ 衰退していくメディア（ポケベル、PHS）に頼るのは間違っているが、発展していくメディアがあるのであれば、そこに要望を出していくことでメディアの技術やしくみが発展していく

新潟地震発生当時は急速に発展した技術に携帯のキャリアがついていかなかったために発信した情報が有効に届けられなかったケースもあった。

音声はパンク状態だったが、パケット通信はスカスカだった時期から、災害時に有効な手段であることがわかり、パケット版の災害時伝言板ができたという経緯があり、段階を踏んで進化している

- ・ 携帯は待ち受け状態であればバッテリーがもつが、通話をするとバッテリーはすぐになくなってしまう

こういう使い方をするのなら、バッテリーを持ち歩くようにするなど、意識して行動形式を変える必要がある

（４）ITBO 用語研究

- ・ 用語の検討
 - 「IT サービス継続戦略」「IT サービス継続マネジメント」について検討を行った
- ・ 今後の展開
 - **全員が最低 1 語は担当し**、ITBO としての定義を検討したものを持ち寄って定例会議で検討することとし、1 月以降の検討対象用語と担当者について検討を行った
 - 担当が決定した用語は以下のとおり
 - ◇ 耐震構造（担当：関山）
 - ◇ 耐震補強（担当：関山）
 - ◇ 制震構造（担当：関山）
 - ◇ 免震構造（担当：関山）
 - ◇ Is 値（担当：関山）
 - ◇ UPS（無停電電源装置）（担当：近棟）
 - ◇ 受電方式（担当：関山）
 - ◇ ハザードマップ（担当：吉川）
 - 担当が未定の用語は以下のとおり。**各人が担当したい用語を申請すること**
 - ◇ 復旧オプション、スプリットチーム、テレワーク（サテライトオフィス、在宅勤務を含む）、代替拠点（代替連絡拠点を含む）、相互協定、参集計画、災害危険度
 - 用語は今後も継続して見当して順次追加していく。**取り上げたい用語があれば各人が提案する**。コアメンバーでも検討を進める。

(5) BCP 訓練の検討

- ・ 訓練の種類とメニューに関する検討 (第 1 回)
 - 吉川さんから提示いただいたマトリックスシートの項目検討
 - ◇ 「レベル」軸の記載内容についてはさらに細分化し、項目を追加することとし、再度検討とする
 - ◇ 「フェーズ」軸については表記、項目の粒度ともにさらに充実させることとし、同様に再度検討とする
 - ◇ 今後はこのマトリックスシートを使用して、メニューの検討を行なう
- ・ 訓練事例の共有
 - 安否確認訓練の事例紹介
時間の都合により、次回に延期

3. 今後の開催予定

(1) 次回 (第 7 回) 研究会の開催予定

開催日時 : 11 月 9 日 (火) 16:00 ~

場 所 : BCAO 東京オペレーション事務所会議室

中央区日本橋本町 4 - 3 - 4 東海日本橋ビル 7 F

(2) 次回以降の開催予定

| | 開催日 | 開始時間 | 場所 |
|------|-------------|-------|-------------|
| 第8回 | 2010年12月14日 | 16時 ~ | 東海日本橋ビル(予定) |
| 第9回 | 2011年1月11日 | 16時 ~ | " |
| 第10回 | 2011年2月8日 | 16時 ~ | " |
| 第11回 | 2011年3月8日 | 16時 ~ | " |

4. 2010年度 第6回研究会出席者一覧

| | | |
|----|-------|---|
| 1 | 川村 丹美 | 株式会社シーエーシー |
| 2 | 関山 雄介 | 大成建設株式会社 |
| 3 | 伊藤 高信 | TeleContinuity, Inc |
| 4 | 岡 伸幸 | ソフトバンクBB株式会社 |
| 5 | 近藤 隆一 | 株式会社富士通エフサス |
| 6 | 佐柳 恭威 | スタンダード&プアーズ |
| 7 | 近棟あづさ | 株式会社エム・ピー・アイ |
| 8 | 土橋 篤 | みずほ情報総研株式会社 |
| 9 | 野口 洋子 | わかば国際特許事務所 |
| 10 | 吉川 明人 | NEC ネクサソリューションズ株式会社 |
| 11 | 榎本 純夫 | 中小企業・地域普及研究会 座長 (株)損保ジャパン・リスクマネジメント) |
| 12 | 市川 啓一 | 災害情報研究会 座長 (株式会社レスキューナウ) |

NO.11 榎本様は、研究会交流の企画の一環として他の研究会からオブザーバーとしてご参加いただきました。

以上